

150号

11月例会のお知らせ

日時： 11月23日（祝日）午後4時～8時
場所： 府中町屋倶楽部
内容： 平成18年『絵暦 村国山篇』ケース組み立て作業

今年もまたケース組立作業を手伝って下さい。
皆様の労働奉仕があつてこそ、毎年絵暦を出版し続けることが出来ております。雑談しながら手だけ動かしていただければいい作業です。ご協力をお願いいたします。
作業途中の6時ごろ夕食をお出しします。
尚お帰りの際、出来たての『絵暦』を一部お持ち帰り下さい。

例年、周囲の山々の紅葉が美しくなって来る頃に、『絵暦』が出来上がります。

越前市は、中央に村国山が孤立し、その眼下を日野川が流れていますので、昨年からは川と山の巨大ピクトープとして、日野川、村国山を捉え、絵暦に仕立てる企画に取り組んできました。

平成5年の武生ルネサンス発足以来、故郷の文化、歴史、自然にこだわった『絵暦』を出版し続けて、ついに13作目になります。昨年の『絵暦 日野川篇』は市内の書店に置いたものが一冊残らず売れたほど、大変好評でした。今では思わぬ家の玄関、思わぬ人の机上でこの絵暦を見掛けることが多々あり、嬉しく思っております。今回の『絵暦 村国山篇』も、昨年同様に写真撮影は河合俊成さん、文は三田村善衛さん、デザインはエッグデザインの松田良一さんに担当してもらいました。河合さんには、昨年の秋ごろから、仕事のほとんどの休みを撮影のために、使ってもらったのみならず、夜明け前や、夜中に出かけていただいたこともあります。また三田村さんには何度か撮影に同行してもらったりして、洒落な文を書いていただきました。こうして撮影した1000コマ以上の写真から選んだ珠玉の12枚と、オシャレな一文になっております。尚写真を引き立たせているバツ

クに「サングリエ」というフランスの伝統色で、黒の入った非常に濃いマロン色をストライプ状に使っているところにデザイナーのセンスが光っています。表紙とケースはセピアでまとめ、オレンジ色で『絵暦』と箔押ししています。

考えてみますと、わが故郷の中でもっとも変わらないのが山でしょう。昭和初期に夫鉄幹と共に武生を訪れた与謝野晶子が「われも見る源氏の作者おさなくて 父と眺めし越前の山」と詠んでおります様に、村国山も日野山も三里山も大伴家持や紫式部が見たものとさほど変わってはいないでしょう。四季折々その色の变化を楽しめる山が目近にあることの幸せを思います。

さて来年の絵暦は何をテーマにしたらいいでしょうか。23日にケースの組み立てをしながら、話し合いたいと思いますので、それまでに考えておいてください。

先月は朝倉氏資料館に「花咲く城下町一乗谷 花の下に集う中世の人々」展を観に行き、「一乗谷 出土の掛花生」の講演を聴きました。一乗谷で栄えた朝倉の高い文化が窺える展覧会でした。20日までやっておりますので、足を運んでみてください。今一乗谷周辺の紅葉は静かな美しさを見せてくれています。